

ZAIDAN NEWS LETTER

MAY/2014
VOL.21

HITACHI

Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション (米国)

ZAIDAN Report

日立国際奨学財団

● 公益財団法人 日立国際奨学財団は創立30周年

「皆さまのご支援に感謝いたします」 理事長 谷垣 勝秀

日立国際奨学財団は創立30周年の節目を迎えることができました。当財団は日立製作所第3代社長である駒井健一郎氏が、日立らしい貢献として、科学・技術を中心にアジアの若い人材の育成と日本の教育・学術交流を支援したい、そして、アジアの若い人々が日本で学び多くの友人を作ることができればお互いの理解が深まり、日本の若い人々にとっても国際感覚を養うことにつながり大きな意義があるとの思いから創設しました。30年を経た今日、駒井氏の思いは実を結びつつありますが、これもひとえに、これまで財団を支えていただきました皆さまのご指導、ご支援の賜物です。今後も、さらにニーズに合った活動を展開すべく、努力を重ねてまいります。引き続きお力添えのほど、宜しく願いいたします。



2013年度卒業式集合写真

「継続は力です」 文部科学省顧問 元 東京工業大学学長 日立国際奨学財団選考委員長 木村 孟



日立国際奨学財団が創立30周年をお迎えになりますこと、心からお祝い申し上げます。私は、選考委員長として10年余り財団の仕事のお手伝いをさせていただいていますが、いつも感心させられていることは、財団事務局のスタッフの皆さんが選考に先立ち、応募者の大学に出向き、本人ならびに大学当局と直接面談し、さらに、受け入れをする日本の大学の先生にも直接会ってお話をよく聞かれていることです。奨学生の受け入れについては私もさまざまなトラブル事例を知っていますが、この財団のように丁寧に対応しているところは私の知る限り皆無に近く、大いに評価すべき点だと思います。

日立国際奨学財団が創立30周年をお迎えになりますこと、心からお祝い申し上げます。私は、選考委員長として10年余り財団の仕事のお手伝いをさせていただいていますが、いつも感心させられていることは、財団事務局のスタッフの皆さんが選考に先立ち、応募者の大学に出向き、本人ならびに大学当局と直接面談し、さらに、受け入れをする日本の大学の先生にも直接会ってお話をよく聞かれていることです。奨学生の受け入れについては私もさまざまなトラブル事例を知っていますが、この財団のように丁寧に対応しているところは私の知る限り皆無に近く、大いに評価すべき点だと思います。

日立スカラーシップ・プログラムでは170名の大学教員を招聘し、日本の大学の博士課程での修学支援をしておりますが、そのうちの10%を超える19名が母校で教授になっていることを聞き、規模こそ大きくありませんが、極めて高い水準で事業をすすめられていることに感銘を受けております。この財団ではこの他に博士号を保持している教員の日本の大学での研究を支援するリサーチフェロープログラム、人文科学分野における日本研究を支援する駒井フェローシップなどのプログラムもありますが、母校に帰り活躍している卒業生は財団のみならず、日本にとって貴重なアセットです。

継続は力です。30周年を迎えるに当たり、財団が今後ますます発展し、一人でも多くの教員や研究者を支援していただくことを改めてお願いしたいと思います。

日立国際奨学財団の概要

◆日立スカラーシップ

東南アジア諸国の理工系を主とする自然科学分野の大学教員を、日本の大学院に招聘するプログラム。

◆日立リサーチフェローシップ

自然科学系博士課程を修了した大学教員の学術水準の向上を目的とし、日本の大学・研究所に招聘する短期のプログラム。

◆駒井フェローシップ

故駒井健一郎初代理事長から遺贈された資金をもとに、東南アジアの人文・社会科学系の若手研究者を招聘する短期のプログラム。

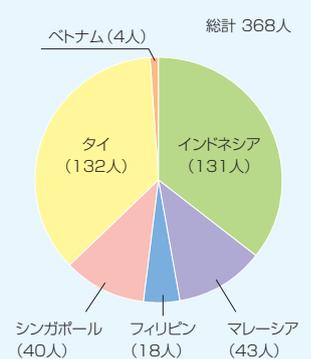
◆卒業生支援と学術交流への助成

日立スカラーシッププログラムを修了し帰国した大学教員の研究支援や、日本の指導教員との共同研究支援などを実施するプログラム。

東南アジアにおける交流大学 (2014年現在)



プログラムの国別受け入れ実績



日立国際奨学財団

●2013年度日立スカラーシップ奨学生の卒業式を開催



挨拶する谷垣理事長

日立国際奨学財団は、3月12日、東京都文京区の東京ガーデンパレスにおいて、2013年度日立スカラーシップ奨学生の卒業式を開催しました。当日はフィリピンのロベス大使をはじめ、5カ国の大使館や8名の方々出席され、当財団活動への理解を深めていただくと同時に、出席した卒業生や在学中の奨学生に

励ましの声をかけていただきました。

日立スカラーシップは、ASEAN諸国の大学で自然科学分野を専門とする教員が日本の大学院に留学することを支援するプログラムです。1985年に開始して以来、これまで29年間に合計170名の大学教員を日本に招聘しており、毎年3月に当該年度に卒業する奨学生と日本で修学中の全奨学生を招き、卒業式を東京で行っています。留学中、奨学生は修学のみならず、日本の自然や文化に触れるイベントのほか、日立グループを知ってもらう行事にも参加しています。

2013年度卒業生は、皆さん理系女子の先生ばかりですが、留学中に大きな成果を上げ、母校でのますますのご活躍を期待しています。

氏名(フリガナ)	出身校(国)	大学院(専攻)
Ms. Zanariah Binti Hashim (ザナリア・ビンティ・ハシム)	マレーシア工科大学(マレーシア)	大阪大学(代謝工学)
Ms. Jiraporn Sirison (ジラポーン・スリソン)	キングモンク工科大学(タイ)	京都大学(農学資源学)
Ms. Mallika Srisutham (マリカ・シースタム)	コンケン大学(タイ)	東京大学(土壤農学情報学)
Ms. Hanh Thi Thu Tran (ハン・ティ・トゥラン)	ホーチミン工科大学(ベトナム)	東京大学(物性理論)

式典では、日立国際奨学財団の谷垣理事長が挨拶し、その後フィリピンのロベス大使からご祝辞を、また、指導教授を代表して、大阪大学の福岡教授からご挨拶をいただきました。



フィリピンからの奨学生を激励するロベス大使



卒業式の様子



各国の文化パフォーマンス(インドネシア・ダンス)

先輩からのメッセージ

インドネシア大学 副学長 バンバン・ウィバワルタ氏



日立国際奨学財団が創立30周年をお迎えになりますことに心よりお祝いを申し上げます。私は駒井フェロースHIP・プログラムで2004年6月から9月まで東北大学で「変革期における文学者の役割～明治維新とインドネシア改革をめぐる～」というテーマで充実した研究生を送りました。日本に関する研究を支援していただける駒井フェロースHIPは、人文学部教員の私にとり大変ありがたいものでした。帰国後、学部長、日本地域研究所長を務めたあと、2013年より副学長となった今、日立の人を育む理念に改めて敬意と感謝の念を抱いております。日立国際奨学財団のますますのご発展を祈念いたします。

日立環境財団

●平成26年度「環境NPO助成」が決まりました

全国からの公募で、今年度は59件の申請をいただきました。選考委員による審査の結果、下記の7団体に総額800万円の助成が決まりましたのでご紹介します。

- ◆もう一つの森(海の森)づくり支援事業(海の森づくり推進協会)
- ◆自然エネルギー活用によるエコ観光地づくり(市比野温泉地域活性化協議会)
- ◆獣皮利用による地域活性化～モデル地域支援および、学生共同による販路調査と商品開発～(エコツーリズムセンター)
- ◆棚田保全を通じた都市と農村をつなぐ、循環型経済社会実現プロジェクト(棚田LOVER's)
- ◆森林再生・保護活動による自然資源管理プロジェクト(日本国際ボランティアセンター)
- ◆市民参加による切り捨て間伐材の利活用モデルづくり(日本森林ボランティア協会)
- ◆地域の持続可能性と幸福度に及ぼす地域経済の影響に関する理論と事例の研究および情報発信(ジャパン・フォー・サステナビリティ)



道川での藻場づくり(海の森づくり推進協会)



湯の滝公園(市比野温泉地域活性化協議会)

各活動テーマの詳細内容は、日立環境財団のfacebookでご紹介していますので、是非ご覧ください。

日立環境財団 Facebook <http://www.facebook.com/hitachi.kankyo>

●「環境サイエンスカフェ」開催報告

エネルギー問題の誤解を解く(2回シリーズ)
講師: 小西 哲之さん(京都大学エネルギー理工学研究所 教授)

第19回 「ロジスティクスと将来像」
第20回 「人と環境へのリスクと費用:原子力と再生可能エネルギーの例を通して」

日時: 2014年1月29日(水) 18:30~20:00
日時: 2014年4月9日(水) 18:30~20:00

参加者: 38名
参加者: 49名

さまざまなエネルギーの説明とエネルギー問題の本質について、さらに火力・水力・原子力・自然エネルギーなど、多様な発電技術のリスクの考え方や、脱原発の課題についてを2回シリーズで詳しくお話ししました。



※講演録、参加募集情報は財団ホームページをご覧ください。

●環境賞決定のお知らせ

今年度の環境賞受賞者を、5月20日付日刊工業新聞と財団ホームページで発表します。表彰式を6月11日に開催しますので(於 経団連ホール)、参加ご希望の方は事務局までお問合せください。

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/>

倉田記念日立科学技術財団

●平成25年度「倉田奨励金」の贈呈式を開催しました

3月3日(月)、経団連会館にて平成25年度(第46回)倉田奨励金の贈呈式・記念パーティーを開催しました。今年度は全国の研究者から301件のご応募をいただき、その中より難関を突破された54名の方々に研究助成金を贈呈しました。

贈呈式では冒頭に主催者挨拶、菅野選考委員長からの選考経過報告があり、その後小畑理事長より受領者ひとりひとりへ、贈呈書をお渡ししました。

また、下村文部科学大臣(山脇審議官代読)、首都大学東京の原島

学長よりご祝辞を賜り、贈呈式後の記念パーティーでは、上智大学の早下理工学部長より乾杯のご発声をいただき、受領者の皆さんへ暖かい応援の言葉をいただきました。

本年度採択された研究テーマの一覧は財団ホームページでご覧いただけます。また、研究内容の要旨が掲載された贈呈式のパンフレットを無料でお分けしておりますので、ご希望の方は財団事務局までお問い合わせください。



小畑理事長より倉田奨励金の贈呈



受領者・ご来賓の記念集合写真



首都大学東京 原島文雄学長



記念パーティーの様子

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/kurata/index.html>

小平記念日立教育振興財団

● 茨城大学 社会公開セミナー開講

当財団では、茨城大学が主催するセミナーを支援しています。当財団が支援するセミナーは、前期に開催される「社会公開セミナー・先端科学トピックス」と後期に開催される「専門講座（実践産業技術特論）」です。

本セミナーは、地域教育の振興に尽力された日立製作所元副社長 高尾直三郎氏のご遺族からの遺贈財産を基金（高尾基金）とし、この基金をもとに1994年から「茨城大学イブニングセミナー」として開催され、現在 前述の2つの講座が開催されています。

「社会公開セミナー・先端科学トピックス」は、茨城大学 大学院生とともに市民の方も聴講できる科学技術に関するセミナーで、どなたでも、事前申し込みなしに、関心のある講座のみ聴講できる受講料不要の講座です。

開催場所 茨城大学工学部 E1棟1階10番教室
(茨城県日立市中成沢町4-12-1)

社会公開セミナー・先端科学トピックスは、次のURLからも閲覧できます。
<http://www.gse.ibaraki.ac.jp/coope/seminar/index.html>

2014年度 茨城大学 社会公開セミナー
先端科学トピックスA

開催場所 茨城大学工学部 E1棟1階10番教室
茨城県日立市中成沢町4-12-1

開催時間 18:00~19:30

5/8 下級院生のための論文選システム
5/15 放射性物質汚染土壌の浄化と今後の課題
5/22 3次元CAD・可視化と経営への応用
5/29 熟成発酵技術のこれから
6/5 超微細リニアモーターカーと超電導球磨機
6/12 可視光通信の仕組みと応用
6/19 マシンインテリジェンス
6/26 放射光を用いた構造生物学

参加費 無料
お申込 不要
どなた でも

主催：茨城大学大学院理工学研究科 後援：(公財)小平記念日立教育振興財団高尾基金
問合せ先：茨城大学工学部総務係 茨城県日立市中成沢町4-12-1 TEL:0294-38-5004

日立みらい財団

今年度も、公益財団法人 日立市体育協会と共催している「竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会」を、8月23日・24日に日立市で開催します。今年で共催がスタートして35年目となりました。日立市民のスポーツを振興し、健康で明るく活力のある市民生活と地域社会づくりを目的としている日立市体育協会のホームページには、市内のさまざまなスポーツ活動が紹介されています。その中に「日立市バンボン普及推進協議会」の記事をご紹介します。



「バンボン」は、大正10年頃、創業間もない日立製作所日立工場ではじめられました。当時の従業員は昼休みを将棋や囲碁で過ごす者が多く、スポーツではキャッチボールをするぐらいしかなかった。

しかし、建家のガラスを壊すケースが多く、これをやる範囲を限定したところ、ミカンの空き箱を利用していつの間にか板きれを手にテニスボールを打ち合い、お互いにルールを決めてゲームを行うようになった。これが「バンボン」のそもそもの始まりです。これを昭和4年、名称も時の日立工場長であった高尾直三郎氏*によって、「バンと打って、ボンと弾む」ところから「バンボン」と名づけられ、正式なルールが設定され、今日に至っています。(ホームページから一部抜粋)

講習会の日程や、競技規則なども掲載されています。詳しくはWebをご覧ください。

日立市体育協会 <http://hasa.or.jp/panpon/about/about.html>

第31回日立市バンボン大会 動画
<http://hasa.or.jp/panpon/movie/index.html>

*左記の「日立製作所 元副社長 高尾直三郎氏」と同一。

編集後記

日立製作所75周年を記念し設立された日立国際奨学財団は12月に30周年を迎え、これまでに、招聘した奨学生は日立スカラーシップの170名を含め総勢368名になりました。本号では3月に開催された卒業式の様子をご紹介します。ニュースレターでは財団のさまざまな活動をご紹介します。財団へのご意見・ご感想、さらには財団へのご寄付などございましたら、財団事務局宛にご連絡お願い申し上げます。



本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

- 公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- 公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- 公益財団法人 日立環境財団
- 公益財団法人 日立国際奨学財団
- 公益財団法人 日立みらい財団
- 日立ファウンデーション(米国)

- ✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ shakai.koken.qm@hitachi.com

- TEL 03-5221-6675
- TEL 03-5221-6678
- TEL 03-5221-6677
- TEL 03-5221-6679
- TEL 03-5221-6675
- TEL 03-4235-5801

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部・社会貢献部まで。

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階

FAX 03-5221-6680

財団ホームページ ▶▶▶

www.hitachi-zaidan.org



発行日:2014年5月20日発行
発行責任者:神山 和也
編集責任者:寺村 奈津季
印刷:(株)日立ドキュメントソリューションズ